

この夏に出会ったものの中から、3つのことを紹介させてもらおうと思います。

諸国を行脚し 時には岩の洞などで仏像を彫り続けたことで有名な円空。荒削りで力強く、一体いったいそれぞれの表情があり、ゆたかさと深さを感じさせてもらえます。

今年も また 円空仏とお出合いすることができました。

生涯 12万體とも言われる ひとつひとつには、おそらくかけがえのない願いが託されているのでしょう。

400年も昔の出来事が、あらためて今「私」の中でひとつひとつの「時」として生まれくるような気がしました。

木が円空上人を通して 新たな姿を与えられ、そして後の世の誰かが自分のこととして再び意味を見出す …… 例えば「この一連のドラマには、立ち合う人の瞬間へへの意志を介して、「いのち」が永遠につながっていくことが示されているのだ」と思いました。

ふたつめは『年輪のはなし』という絵本です。

その中の言葉をノートに書きとめておきました。こんな言葉です。

「木は ーのできたときも、 ーの時代も知っている」

「木は大きく成長しながら、その成長の記録をかきつづけていく」

「あるときは ひでりでかわきながら、あるときは公害でくるしめられながら、1年もかかさずは、はっきり自分の育った環境のできごとを年輪の中にかきつづける」

年輪という 一見 シンプルな表現に込められた、自己存在と世界に対する記述、記録、「いのち」そのものの表現 ……  
すごいな！と思いました。

3つめです。

△ 僕の背の何倍も大きなカエデの木  
僕が大きくなったら追いかせないよ

今日は 葉っぱがキラキラの歌

うたってあげる

眠ったって いいんだよ

聞いていてね

僕の年の何倍も生きてるカエデの木  
生まれたのはいつかな そっとおしえて

今日は誕生日の歌をうたってあげる  
そして一緒に踊ろうよ 腕をくんで

僕の背の何倍も大きなカエデの木  
ずっと ずっと こうしてお話しよう

もしも遠くに行っても  
夢に出てきてくれるかな  
気持ちいい風ふかせて  
夢の中でも

ひとつの歌を知りました。「カエデの木」のうたです。  
子どもたちが視るテレビの番組で、数年前にうたわれていたようです。  
自分でうたおうとすると、なかなかうたえないのですが、最近楽譜を手に入  
入れて、少しずつお近づきなっているところです。  
有名なシルヴァスタインの絵本『おおきな木』にあるように……  
りんごの木とちびっこは大の仲よしで、いつでも木と、木と、あそび  
大きくなっていきます。時が流れても大きくなったちびっこを木はずっと  
見守り、必要なものを与えて……、思い返すと、誰もが自分と深い  
縁のある木があるのかも知れません。自分の生い立ち、人生と重なり合う  
木があるのでしょうか。

\* \* \* \* \*

この秋から工事に入る園舎東棟(もくれんの家、ほしくみ等)は、京都で  
育った木を材料に建てられます。  
たくさんの「いのち」のドラマを経てここに届けられる木たちに、感謝の気  
持ちをこちらからも届けたいと思います。そしてここで建物として  
生まれかわっていくことをよろこびと感ぜてもらえるように、お迎えし  
その経過に立ち会えればと願っています。

今年のあきまつりは、ですからなつまつりも引き継いで、「木」がテーマです。  
「木」のドラマは、大地と天空の間に立って生きる者同志の「人」のドラマ  
でもあるのでしょうか。

夏の光を浴びて、ひと回り大きくなった子どもたちが大きな木の下を走り  
回る9月、建て替への準備が並行して行われていきます。  
大忙しの月になることでしょうか、瞬間への「今」を、大人も子どもも一人  
ひとりが、それぞれらしく生きながら、時をつむぎつつ進んでいきたいと  
思います。  
今年の秋を、よろこびと共に迎えましょう!

木は年輪をひとつ増やし、私たちは年齢をひとつ重ねる……今年を共に  
うれしく生きている!ということなのですね。

園長 升光 泰雄

